

## 平成 27 年度 創邦 21 事業報告

### 1 会議の開催

#### (イ) 総会の開催

平成 27 年 7 月 19 日 午後 2 時より 定時総会開催 於 CAT オフィス

#### (ロ) 例会の開催

平成 27 年 5 月 13 日午後 3 時より	第 150 回例会	於 CAT オフィス
” 6 月 24 日午後 4 時より	第 151 回例会	於 CAT オフィス
” 7 月 19 日午後 2 時 45 分より	第 152 回例会	於 CAT オフィス
” 9 月 30 日午後 6 時 30 分より	第 153 回例会	於 CAT オフィス
” 11 月 4 日午後 3 時より	第 154 回例会	於紫山会館
” 11 月 26 日午後 2 時より	第 155 回例会	於 CAT オフィス
平成 28 年 1 月 25 日午後 5 時より	第 156 回例会	於 CAT オフィス
” 3 月 3 日午後 6 時より	第 157 回例会	於 CAT オフィス

### 2 作品演奏会の開催

#### 第 13 回作品演奏会

主催：創邦 21

日時：平成 27 年 11 月 5 日

18 時開場 18 時 30 分開演

場所：紀尾井小ホール（東京都千代田区）

制作・協力：(株)シーエイティプロデュース

助成：芸術文化振興基金

(公財) アーツカウンシル東京

(公財) 新日鉄住金文化財団

曲目：『梅若涙雨』（金子泰作詞、松永忠一郎作曲、藤舎呂英作調）

『からんくにゆき』（塩田律作詞、今藤政太郎・杵屋浄貢・清元栄吉作曲）

『キリエ』（福原徹作曲）

『ほら男爵の大冒険』（杵屋巳太郎作曲、竹柴潤一脚色）

『大岡信 折々のうた から』（金子泰構成、今藤長龍郎・今藤美治郎・米川敏子作曲）

### 3 公開講座の開催

#### 第 6 回公開講座「創作のキモ」

主催：創邦 21

日時：平成 27 年 8 月 18 日 18 時 30 分開始

場所：原宿・アコスタジオ

入場料：一般 2000 円、創作を志す方 1000 円、学生 1000 円、学生で創作を志している方 500 円

内容：「共同制作二態」

#### I 部一切りつめた世界

「からんくにゆき」

(塩田律作詞／今藤政太郎・杵屋浄貢・清元栄吉作曲)

講師：今藤政太郎・杵屋浄貢・清元栄吉 ききて：今藤政貴

#### II 部一オムニバスな作り方

「大岡信 折々のうた から」

(金子泰構成／今藤長龍郎・今藤美治郎・米川敏子作曲)

講師：今藤長龍郎・今藤美治郎・金子泰・米川敏子

### 4 創邦 21 ホームページの運営

第 13 回演奏会に向けた創作活動・準備状況をトップページに順次掲載

アーカイブとして「公演記録」を更新

同人の執筆したエッセイ、レポート等の掲載

同人による同人インタビュー「創邦 11 面相」の連載

ブログの更新

### 5 作品演奏会準備

平成 27 年 11 月 5 日開催の第 13 回創邦 21 作品演奏会へ向けての諸準備

平成 28 年 11 月 8 日開催予定の第 14 回創邦 21 作品演奏会へ向けての諸準備

## 【総括】

1 平成27年7月19日に定時総会、また同年5月13日の第150回から翌28年3月3日の第157回まで計8回の例会を行った。

例会では、150回から154回は主に13回演奏会に向けての話し合いがなされた。155回に第13回演奏会の反省と総括、それを踏まえ次回(14回)演奏会開催を決定し、以降はその準備を進めている。

2 平成27年11月5日に紀尾井小ホール(東京都千代田区)にて、創邦21第13回作品演奏会を開催した。

①公演全体の内容 ②個々の出品曲の内容 ③公演の制作的な面 の3点いずれもで、手ごたえと具体的な今後の指針を得ることができた。

①について。創邦21は創作の団体として、これまで書き下ろし新作の発表を第一と考え演奏会活動を行ってきたが、公演全体よりも個々の作品に重点がおかれがちであった。今回初めて全曲再演としたところ、作品の個性や編成、舞台転換の手間、所要時間などを考慮した選曲と番組立てとなり、それによって演奏会全体としての質が高められ、安定感のある公演となった。今後はまた新作の発表を主とする演奏会となるが、今回の経験を活かして企画運営を進めていきたい。

②について。作品の練り直し・ブラッシュアップの機会となることは予想通りであったが、演奏面で予想以上のメリットを感じた。ひとつの作品を演奏者が咀嚼し、自身の表現をしてくださっているように感じられた。またこうした様子から、初演の新作については助演者の負担も考えながら準備をし、よりよい演奏で発表できるようにしていきたい。

③について。集客面ではご招待の方々为例年よりもかなり多く来場していただき、たいへんありがたいことであった。いつもより気合いが入っていたとか、まとまりのある演奏会だったという感想をお客様からいただいたのも、公演のコンテンツだけではなく、ホールに依るところも大きかったのではないかと。幕の外も内も華やいだよい雰囲気であったと皆感じている。

今後はもっと多くの方に会をアピールして、聴きにきていただきたい。創作の会は古典曲の演奏会に比べて集客が難しいというが、それを言い訳にせず努力していきたい。

いずれにしても、今公演を通じ再演の重要性を実感するとともに、再演に堪えるような力のある良質な作品を作っていこうという決意を新たにした。当初目指していた芸術祭への参加は叶わなかったが、それもよい糧として進んでいきたい。

3 第6回公開講座「創作のキモ」は、秋の13回作品演奏会のプレイベント的位置づけで、そこで再演される「からんくにゆき」と「折々のうた から」を取り上げた。2曲とも共同作品なので発表者が多く、一人ひとりにじっくり話を聞いたうえで一つの作品を論じる(または分析する)ことは難しかった。しかし「プレイベント」としては、のちに作品演奏会

にも見えた方々から「先日のキモで話を伺っていたので、作品がよくわかった」というお声もあり、まずまずの成果があったと言ってもよいだろう。

4 創邦 21 ホームページを積極的に運営した。第 13 回演奏会の告知をトップページに掲載したほか、それにブログも活用した。演奏会後には公演記録を掲載し、また同人執筆のエッセイやレポートは随時掲載して、それぞれアーカイブとして、読み物として、ホームページを充実させたほか、平成 27 年 1 月より始めた同人による同人インタビュー「創邦 11 面相」も 4 本掲載された。また同じく「ヨミモノ」内ではエッセイ 2 本、レポート 1 本が掲載された。ブログも毎月 2 ないしは 3 回程度更新し、計 23 本掲載。同人の活動、同人の生の言葉を発信することに努めた。

5 第 14 回作品演奏会を再演曲と書き下ろし新作で構成することに決め、場所も同じく紀尾井小ホールに決定し、準備を進めている。前回演奏会の反省を踏まえ、良い作品を作り上質な演奏をし、集客に努め、会を成功させたい。

以上